

## 地区活動

## 第1弾 水富地区の皆さん、一緒に屋台を…

7月上旬、さやま楽友会水富地区の有志3人が、あるファミレスに集まってお茶をしていたときのこと。10月2日（日）に地域の自治会連合会主催で開催される『水富祭・ウォーキングフェスティバル』が話題になりました。これは地区体育祭に代わる新しい試みで、「入間川沿いの遊歩道を、自分の体調や体力に合わせてウォーキングして、ちょっとだけ汗をかいてみませんか」というイベントです。途中の公園では吹奏楽や太鼓の演奏、外ヨガ、太極拳の体験、屋台などでの飲食物の販売が行われます。そこで、先ほどの有志3人、「楽友会水富地区会でも屋台を出してみないか」という話に大盛り上がり。さて何の屋台にするかで、また飲みながらの検討会。焼き鳥？ 焼きそば？ 今のところ“味噌おでん”が有力候補ですが、決定するまでにはまだ2～3回飲む（？）必要があるかも知れません。

楽友会の水富地区の皆さん！一緒に屋台を出店して楽しみませんか。興味のある方は、「楽友会」の福田正さん（090-2422-3971）までご連絡ください。所属自治会から同フェスティバルに参加される方は、途中「さやま楽友会」の屋台を見つけたらお立ち寄りいただければ幸いです。水富地区以外の会員の方も、僅かですがさやま市民大学同窓会として参加枠を確保しています。ご自由に参加して、ぜひ楽友会屋台にお越しください。詳しくはまたご連絡します。お楽しみに！



(写真はイメージです)

## ● 『散歩の醍醐味』 尽きない冒険⑥…NHK大河ドラマの史跡 ●

車でイオン跡地（新富士見橋の袂付近）まで行き、そこから歩きはじめた。ここは、入間川によって浸食された東側丘陵の麓と考えられる。西側丘陵に比べ、勾配がなだらかで、その奥の台地は、市の中心部を形成している。緩やかな勾配は、人工的か、入間川の自然浸食かは定かではない。バス道路の下の暗渠をくぐると入間川2丁目から入間川3丁目が変わる。用水路赤間川に沿って進むと、国道16号に合流した。

南に少し進み、本富士見橋の袂付近に来ると狭山八幡神社が現れた。説明文によると、現在放映されているNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に出て来る源（木曾）義仲の息子、源義高を祀神とする神社だそうである。不運にも時代の荒波に翻弄され、若くして無念の死を遂げた霊を弔い、16号を更に南へ進む。上り坂になり、あいあい歩道橋という陸橋に着いた。西側丘陵の麓と判断して、陸橋を横断し、16号を右折した。赤間川も16号を横断していて、麓の小道の左側を流れている。



しばらく歩いて行くと、右に入間川小学校が見えてきた。住所も鶉の木に変わっている。広瀬橋通りと交差する信号を横断して直進すると、すぐ右側に入間川中学校がある。梅雨が明けたというのに、このところの大雨の後の晴れ間は、むせかえる草木の匂いを醸し出している。赤間川に沿って進んでゆくと、狭山市鶉の木の終点、霞川に出てきた。霞川の対岸は、入間市黒須であり、赤間川は霞川を横断して入間市へと続いている。狭山市の東側丘陵麓の散歩はここで終焉となる。（松本功さん）

# 元気に活動中！ 学校支援ボランティアセンター

コロナ禍で対面での支援が制限される中でも、できる活動を続けている学校支援ボランティアセンター（SSVC）。活動歴は19年目に入りました。さやま市民大学で「学習支援員養成講座」を開設したり、広報さやまに募集案内を掲載したりしていますが、まだまだ支援員確保が課題だそうです。

今回はそんな学習支援員の活動に、黒川会長が自ら同行、記者レポートを寄せてくれました。

## SSVC入間川小学校学習支援同行レポート

子どもたちの夏休みがスタートした7月21日、入間川小学校ではサマースクール（夏休み補習授業）が全学年で行われ、学習支援のためにSSVCの支援者11人がサポートに入りました。記者も6年生算数支援を担当。このクラスは16人の子どもたちが参加。先生が用意した分数の掛け算・割り算のプリントを1時間40分（途中休憩10分）の間に、それぞれができるところまで解くことが課題でした。



「よし、始め！」。先生の号令で、サッと始める子、なかなか始めようとしない子、いろいろです。鉛筆を持ったまま固まったように解こうとしない子にそっと近づいて見ていると、「 $3\frac{3}{5} \times 5$ 」の問題で悩んでいました。「一緒にやってもいい？」と声をかけると、首をこっくり。「分数の掛け算や割り算は帯分数（帯分数は知っていた）のままでは計算できないから、まず仮分数にしてみよう」と、仮分数の作り方をアドバイス。「 $3 \times 5$ は？そう。その後どうするんだっけ？」。自力で分子に足して正解、「そうだね、いいぞ」。「じゃあ次は $\times 5$ をやってごらん。うん、正解」「じゃあ次の問題。今度は何も言わないから、自分でやってごらん」時間はかかったがアドバイスを思い出しながら正解。なんとか自力で解答し始めました。自信がなさそうなのでしばらくそばに付いて見ていると、式を書きながら正解！しかし、34と17を途中で約分しないために大きな数になり、扱いに苦労していたので途中で約分することをアドバイスすると、書いた式を約分できないか注意して見るようになってきました。

もう一人の女の子は間違った解き方で全問デタラメな解答。1問を丁寧にアドバイスすると、あとは自分で考えながら全問やり直し、GOODのサインをもらって、はにかみながら笑顔を見せてくれました。



6年の教室は支援者4人が担当。採点席からは、「よ～し、今度はちゃんと名前を書いてきたな。いいぞ！」「えへ、へ、へ」など小さなやり取りが聞こえてきます。採点時に支援者からアドバイスや誉め言葉をかけられ、子どもたちもうれしそう。やはり学習も「できた！」の気持ちと「認められる」ことが楽しさの原点のようです。学校の先生方も一生懸命に子どもたちに向き合っているらしいですが、大人数が相手となるとなかなか手が回らないこともあるそうです。

学習時間が終わり、みんな揃って支援者に「ありがとうございました」の挨拶。さっきの子が記者に寄ってきたので、「さよなら」と言うと「お世話になりました！」とちょっと大人びた挨拶にビックリ（笑）。支援者の皆さんからは「子どもたちと接していると元気になるね」「若返るよね」の声が盛んにあがっていました。

子どもと接するボランティアに興味をお持ちの方は、思い切って参加してみませんか。きっと子どもたちの姿に元気づけられることと思います。

ご興味のある方は、SSVC事務局sayama-ssvc@bd.wakwak.com までお問い合わせください。